

データキュレーションのライフサイクルと 大学図書館の役割

池内 有為

文教大学文学部英米語英米文学科

<https://researchmap.jp/oui/>

 <https://orcid.org/0000-0002-5680-1881>



なぜ、データ公開サービスを行うのか？

オープンサイエンスに期待される効果

- ① 研究の効率化
- ② 研究コストの削減
- ③ 研究成果の長期保存
- ④ 研究不正の低減
- ⑤ データサイエンスの進展
- ⑥ 異分野データの統合による新たな成果
- ⑦ 市民科学の推進
- ⑧ イノベーションの創出
- ⑨ 地球規模の課題の迅速な解決
- ⑩ 根拠に基づく政策決定（EBPM）

研究プロセスと研究データ管理サービス



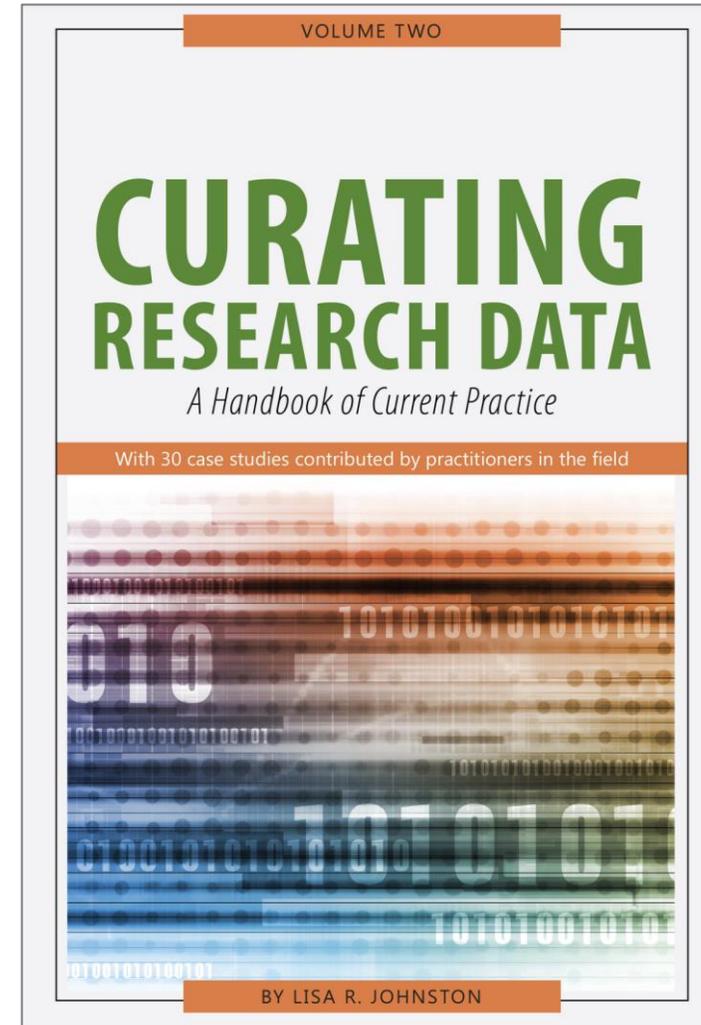
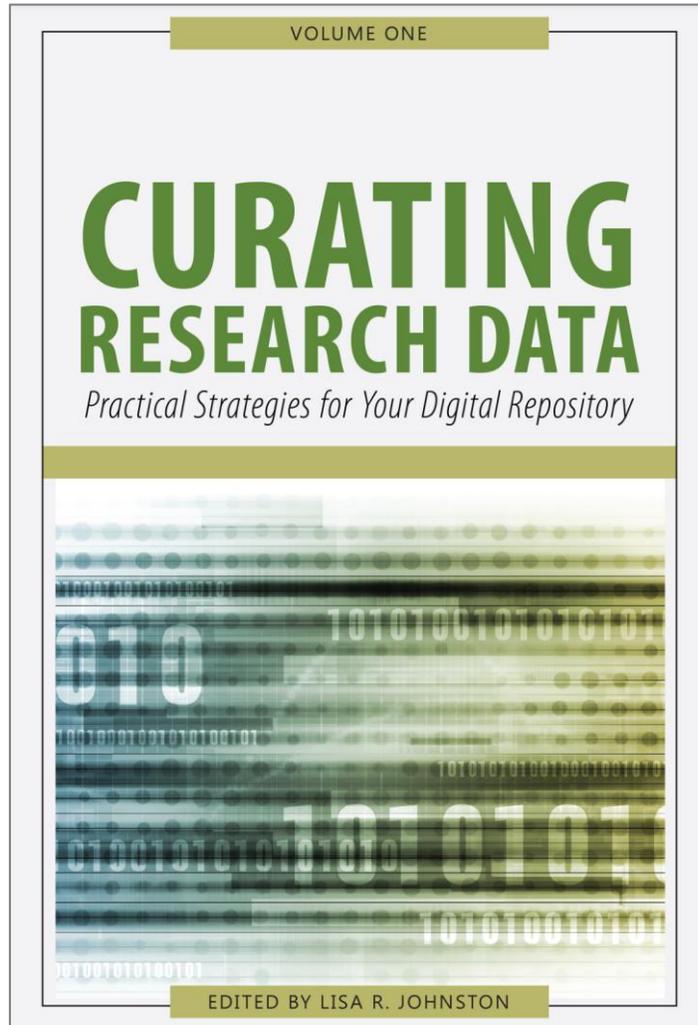
DMP = データマネジメントプラン

データキュレーションの定義

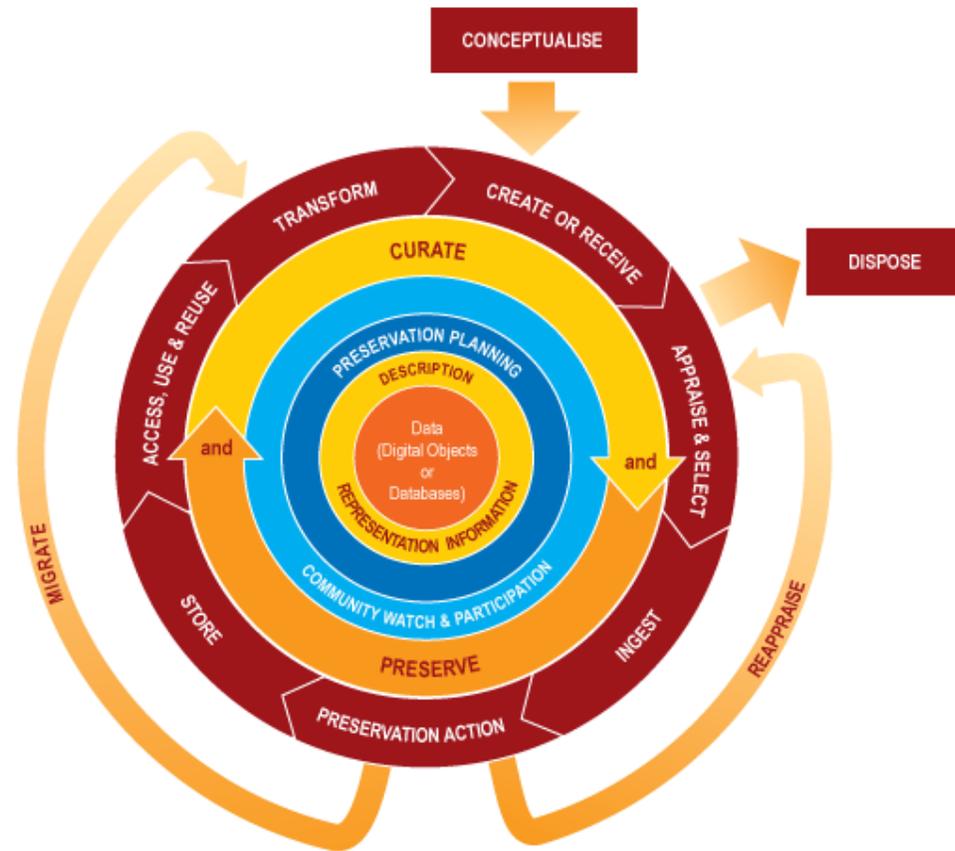
データキュレーションとは、学術、科学、教育にとって興味深く**有用なデータ**を、その**ライフサイクルを通じて積極的かつ継続的に管理**することである。キュレーションの活動や方針は、**データの発見や検索、データの品質を維持して付加価値を高めること**、そして**長期にわたる再利用**を可能にする。



Curating Research Data (2017)



データキュレーションのライフサイクル



DCC Curation Lifecycle Model	Steps
Conceptualize	0. サービスの立ち上げ
Create or Receive	1. データの受け取り
Appraise and Select	2. 評価と選択
Preservation Actions	3. データの加工と処理
Ingest Store	4. 取り込みと格納
n/a	5. メタデータ記述
Access, Use, Reuse	6. アクセス
Transform	7. 保存
Reappraise and/or dispose	8. 再利用

Curation Lifecycle Model (Digital Curation Centre)
<https://www.dcc.ac.uk/guidance/curation-lifecycle-model>

Johnston, L. R., ed. Curating Research Data: A Handbook of Current Practice. Association of College and Research Libraries, 2017, 314p.

研究者とキュレーターの役割

Steps	各段階における役割と活動
0. サービスの立ち上げ	適切な人員配置とビジネスモデルによって持続可能なデータキュレーションサービスを構築する。
1. データの受け取り	データの作成者がデータを機関または分野のデータリポジトリに寄託できるようにする。
2. 評価と選択	データのレビューを行うことで、収集方針に合わないデータを選択・却下を可能にし、デジタルデータに固有の既知のリスクを軽減する。
3. データの加工と処理	確立された手順に従って、寄託された全てのデータを最適な方法で配置し、変換し、準備する。
4. 取り込みと格納	適切なリポジトリを用いて、データを安全な場所に格納する。
5. メタデータ記述	データを容易に発見できるように、著者が登録したメタデータを拡張して適切なメタデータを記述する。
6. アクセス	発見、発信、検索、ダウンロードの機能によって、アクセスを容易にする。
7. 保存	データが有用である限り様々な形で保存する。データの保存期間については、ポリシーに基づいた決定を遵守する。
8. 再利用	データの影響や価値を評価し、保存するか削除するかを決定する。

AXIES-JPCOAR研究データ連絡会 RDM（研究データ管理）事例形成プロジェクト

AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会

home · event ▾ · project ▾

RDM事例形成プロジェクト

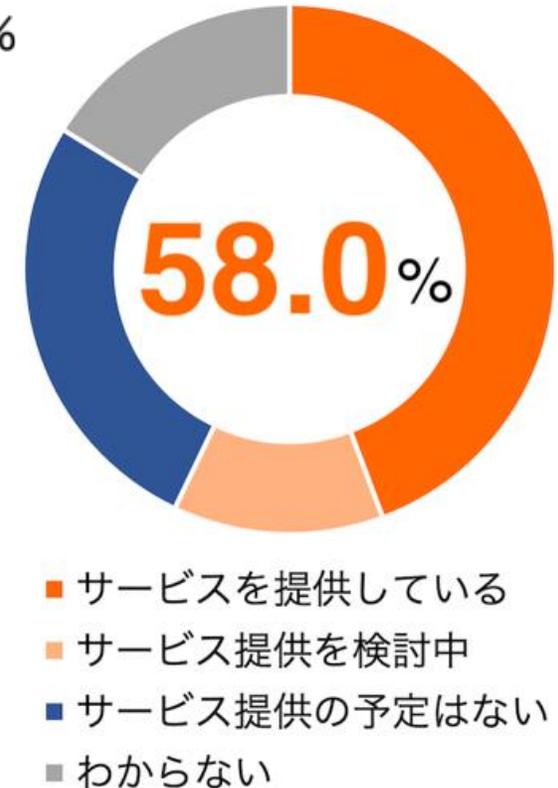
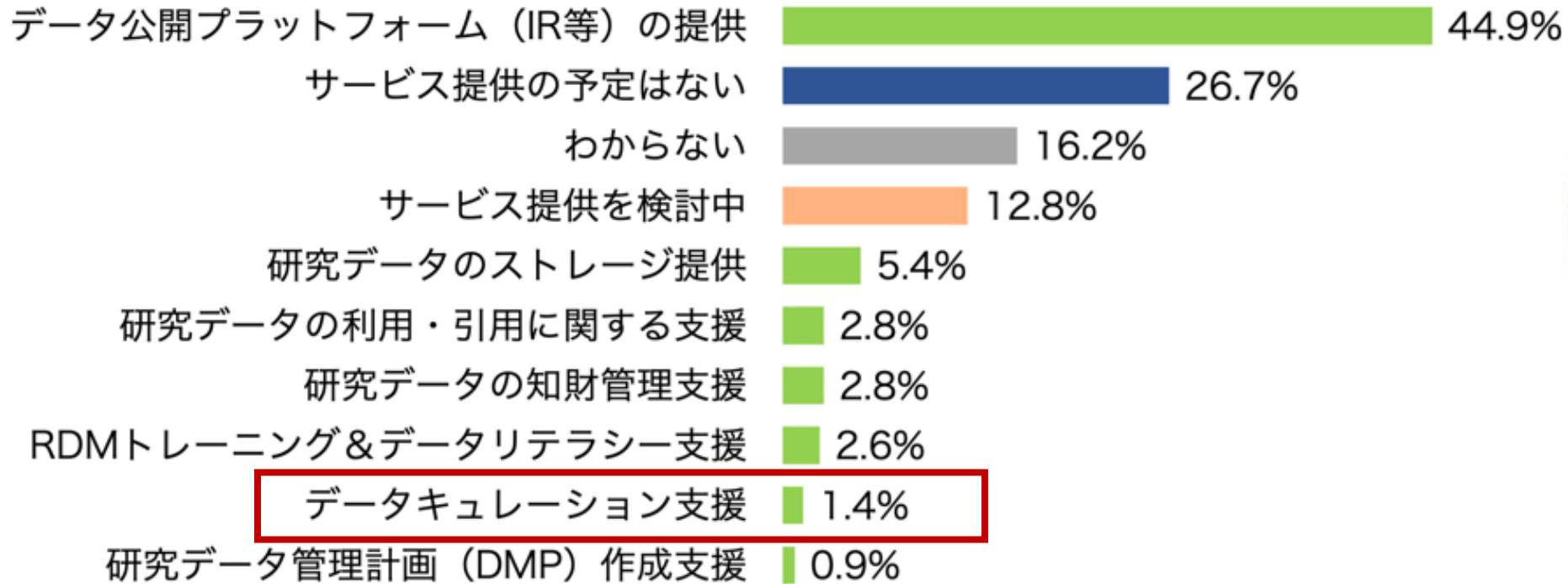
目的・概要

- 国内大学・研究機関において、研究データ管理（RDM: Research Data Management）の取組み事例を形成し、その成果を「事例集」として取りまとめることにより、他大学・研究機関におけるRDM取組み拡大を図る。
- 事例集には、取組み事例を列挙するに留まらず、実際にRDMを実現するにあたり課題となる点や考慮すべき点（体制、予算、規定、基盤、その他）などの分析を含める。

<https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/project/rdm事例形成プロジェクト>

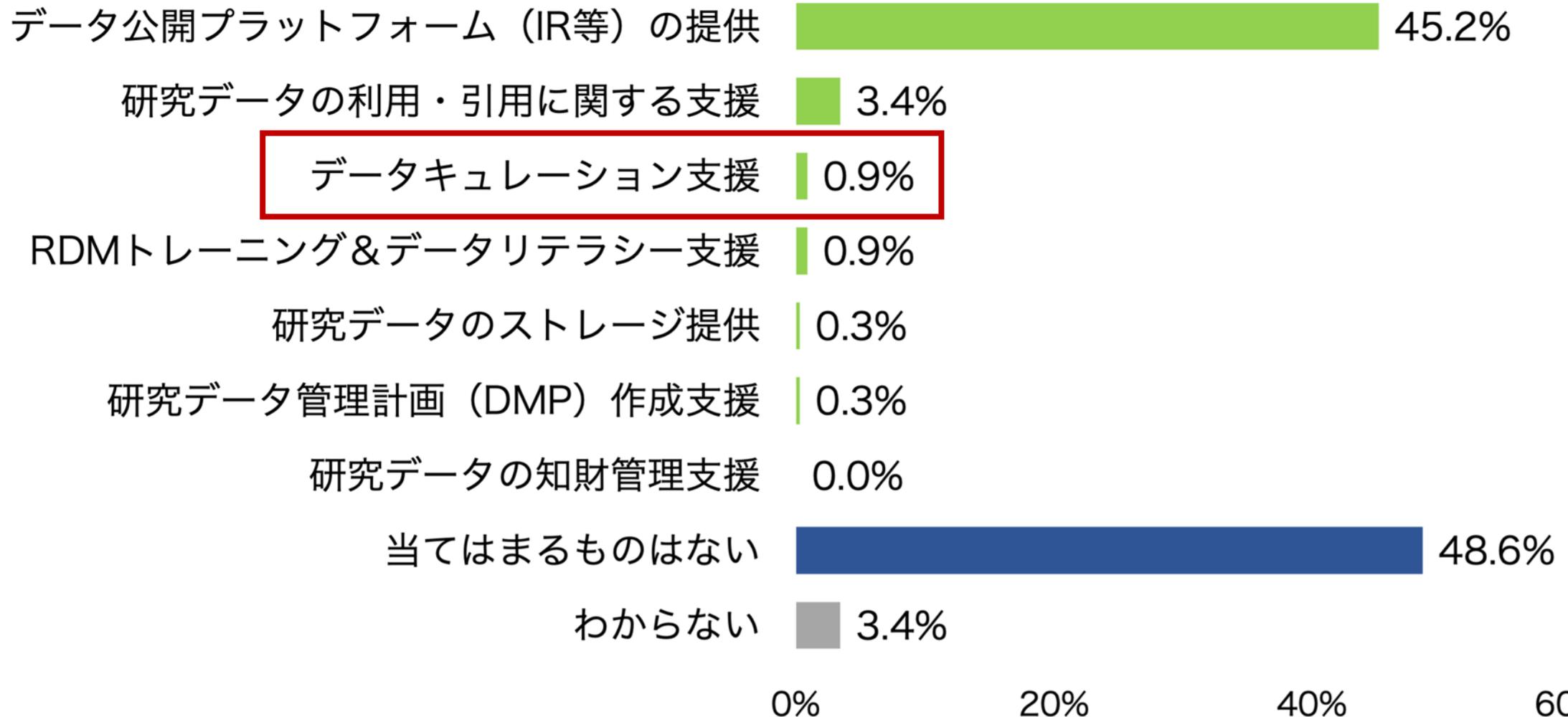
『2020年度RDM事例形成プロジェクト中間報告書』 <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000003>
「日本の研究機関における研究データ管理（RDM）の実践状況—オープンサイエンスの実現に向けた課題と展望—」 <https://doi.org/10.15108/stih.00287>

RDMサービスの実施・検討状況（複数回答・n=352）

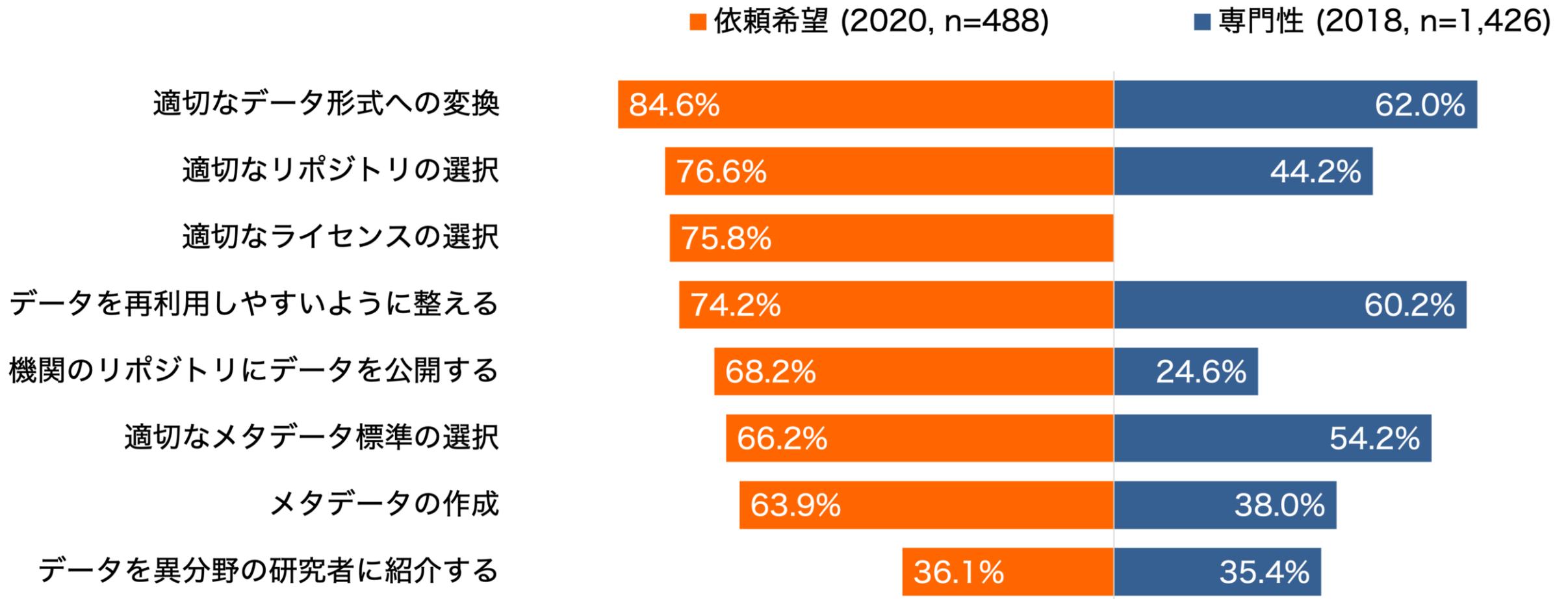


※「データ公開プラットフォーム（IR等）の提供」と「予定なし」「わからない」を同時に選択している回答がみられたが、「サービスを提供している」とみなして計算した。

RDMサービスのうち、図書館で実施しているもの (複数回答・n=352)



研究者が依頼を希望するプロセスと専門性



『研究データ公開と論文のオープンアクセスに関する実態調査』より
2020年 <https://doi.org/10.15108/rm316> 2018年 <https://doi.org/10.15108/rm289>

データキュレーションサービスと役割分担（案）

キュレーションライフサイクル	分野専門家	図書館	情報技術 専門家	研究者
0. サービスの立ち上げ	◎	◎	◎	*
1. データの受け取り	◎			*
2. 評価と選択	◎			
3. データの加工と処理	◎			
4. 取り込みと格納			◎	
5. メタデータ記述		◎		
6. アクセス	○	◎	○	*
7. 保存		○	◎	
8. 再利用	○	○	◎	*